

保存版

小滝地区地域づくりプラン

～連携プレーでオール小滝！～



小滝地区地域づくり協議会

小滝地区の概要

(1) 位置及び集落数

糸魚川市南西部に位置する地区で、10集落（前川、岡、瀬野田、東峰、夏中、山之坊、中川原、白馬町、白馬温泉、大所）によって構成されています。

地区の総面積は約187km²で、糸魚川市の総面積約746km²の約4分の1を占めています。



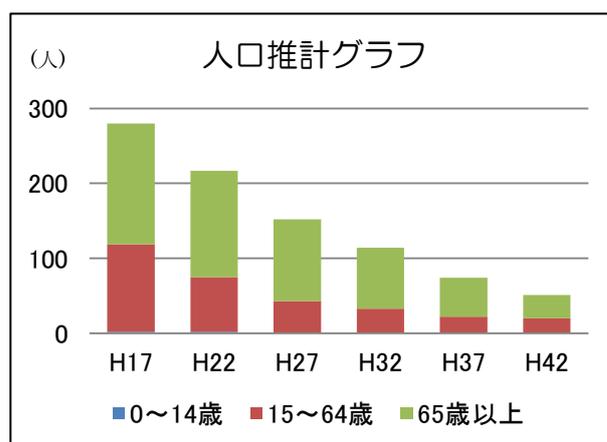
(2) 人口等

人口・世帯数（H27.4.1現在）

| 区分 | 前川 | 岡 | 瀬野田 | 東峰 | 夏中 | 山之坊 | 中川原 | 白馬町 | 白馬温泉 | 大所 | 合計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------------|
| 人口 | 22 | 7 | 19 | 12 | 27 | 18 | 18 | 10 | 7 | 12 | 152 |
| 世帯数 | 12 | 4 | 10 | 8 | 14 | 11 | 11 | 6 | 3 | 9 | 88 |
| 高齢化率 | 86.4 | 85.7 | 57.9 | 66.7 | 59.3 | 77.8 | 72.2 | 60.0 | 57.1 | 100.0 | 71.7 |

人口推計（H17、H22国勢調査を基に推計）

| | H17 | H22 | H27 | H32 | H37 | H42 |
|---------|------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|
| 0～14歳 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15～64歳 | 117 | 73 | 43 | 33 | 22 | 20 |
| 65歳以上 | 161 | 142 | 109 | 81 | 52 | 31 |
| 合計(人) | 280 | 217 | 152 | 114 | 74 | 51 |
| 高齢化率(%) | 57.5 | 65.4 | 71.7 | 71.1 | 70.3 | 60.8 |



(3) 地区の資源

小滝川ヒスイ峡ジオサイト、蓮華ジオサイト、姫川渓谷ジオサイト、白馬山麓国民休養地 高浪の池、白池、蓮華温泉、姫川温泉、中部山岳国立公園、白馬山麓県立自然公園、国指定文化財「小滝川硬玉産地（ヒスイ峡）、白馬連山高山植物帯」、河川：姫川、小滝川、大所川、明星山と真柏、ヒスイ、メノウ、薬石、山菜、きのこ

1 地域づくりプラン策定の趣旨

小滝地区では、急激な少子高齢化の進行によって、自治活動や地区行事の担い手不足が課題となっています。

これからの小滝地区を維持・活性化するにはどうすればよいのか、現状と課題を検証し、課題への対応策とその実行方法を明確にするため、地域づくり協議会を設立し、プランの策定に取り組みました。

地区の各種団体の代表者や、地区在住の女性が協議会の策定委員となり、地区の維持・活性化の方策を協議しました。



策定委員会

2 プラン策定までの取組

- 策定委員会（H25.7.16～H27.4.15 の間に 18 回開催）
- 山菜栽培現地視察（H25.10.7）
- 住民アンケート（H25.12）
- 地区懇談会（大所地区 H26.3.4・平岩地区 H26.3.5）
- 小滝地区の未来を語る会（H26.10.13）※中間報告会
- 白馬山麓国民休養地運営協議会との協議（H26.11.21）
- 小滝生産森林組合とまいまいの会の協議（H26.12.15）
- 小滝地区の若手世代と語る会（H27.1.18）



未来を語る会

3 地域づくりの基本方針

活動に際しては、市の地域づくり活動支援事業の助成を受けながら、小滝地区地域づくり協議会が主体となり、事業を実施する各団体等と連携、協力して進めていきます。また、活動の情報を発信しながら、協力者を募っていきます。

地域づくりプランの計画期間は、平成27年度から平成31年度の5年間とします。

4 地区の現状と課題

地域の現状と課題を把握するため、地区内全世帯対象のアンケート調査を行ったほか、実際に声を聞く場として大所・平岩地区で住民懇談会を開催しました。

また、策定委員会の議論でも、様々な課題が挙げられました。

★地域づくりアンケート（平成25年12月3日～4日配布、12月12日～16日回収）

アンケートの回収率は、世帯が98.9%、個人が91.9%という高い結果となりました。また、自由記入欄では、58件の様々な意見が寄せられました。

主な意見は次のとおりです。

- 地区の「いいな」と思うこと：自然が豊か、のんびり過ごせる、近所付き合い、空気がおいしい
- 地区の「やだな」と思うこと：屋根雪降ろしなどが大変、近くに店がない、鳥獣被害が多い、駅が遠い

- ・誇れる地域の宝：ヒスイ・薬石、温泉（蓮華・姫川等）、山菜、真柏、自然
- ・地域に残したい行事や風習：さいの神、春・秋の祭り、盆踊り、獅子舞

★住民懇談会

- ・大所地区：平成26年3月4日 大所ふれあいセンター 参加者6名
主な話題：山菜活用、移住者受入、木地屋の里の運営、白池など観光施設の活用
- ・平岩地区：平成26年3月5日 中川原公民館 参加者13名
主な話題：温泉の利用、活性化・移住定住、鳥獣対策、健康づくり教室

★策定委員会で挙げられた課題

- ・人口減少や高齢化による活動の担い手不足
- ・企画力や情報発信力の確保 など



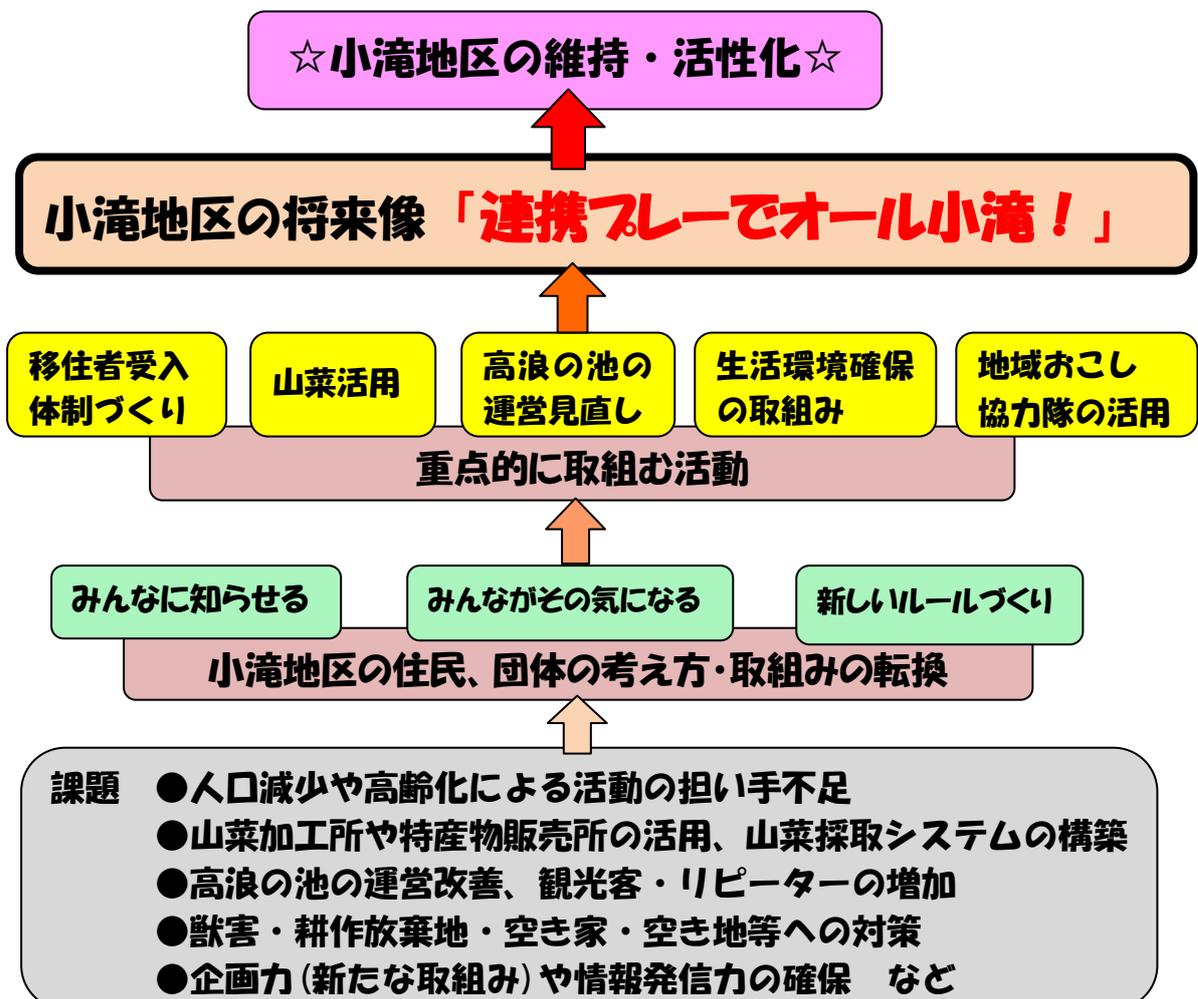
住民懇談会

5 地区の目標（将来像）

地区の将来像は、小滝地区の住民・団体等が連携し、一体となって課題の解決に向け活動している姿とし「**連携プレーでオール小滝！**」としました。

将来像は、次の3点を意識した活動を展開することで実現したいと考えます。

- ・**みんなに知らせる**（プランの取組みや地区の課題を広く周知し、仲間や協力者を募る）
- ・**みんながその気になる**（住民・団体・協力者等に地区の課題を認識してもらい、維持・活性化について考えたり、活動に参加・協力してもらう）
- ・**新しいルールづくり**（今までの仕組みや取組みを変えてみる。団体間の連携を強める）



6 具体的な取組み

課題の解決に向け、次の事業に重点的に取り組めます。

(1) 移住者受入体制づくり

【現状】

- ・移住者受入のコーディネーターや、移住体験メニューを担う人材がない。
- ・地区内の空き家の掘り起こしが不十分である。
- ・移住者が地区に溶け込めるサポートのルールがない。

【在るべき姿】

- ・受入体制（コーディネーター、移住体験施設、体験メニュー等）が充実し、一年を通じて移住希望者が地区を訪れている。
- ・お試し移住体験から、実際に移住する人が増えている。
- ・地区のサポート体制が整い、移住者が地区の生活にスムーズに溶け込み、さらに地区の活動に参画している。

【期間】 平成 27 年度～平成 31 年度

【具体的な取組み】

- ・移住体験メニューの講師となる人材を発掘する。
- ・お試し的な移住体験ツアー（山菜採取、雪掘り体験など）を実施する。
- ・各集落に市の空き家バンク制度を周知し、空き家登録件数の増を図る。
- ・「何でも相談所」を開設し、移住者や観光客の希望や意見を聞く。
- ・各家の美味しいものを持ち寄り、移住者の歓迎会を行う。
- ・地区のルールや慣習を説明する（山菜採取や除雪、行事、村仕事への参加等）。

【関係団体等】 小滝地区自治振興協議会、各集落、移住されてきた方など

(2) 山菜活用

【現状】

- ・山菜加工所の稼働率が低い（年間延べ8週間ほど）。
- ・山菜採取や生産活動（加工、販売、経理、開発等）の人手が不足している。
- ・山菜商品の加工や味付けに、地域の女性や消費者の意見が活かされていない。
- ・特産物販売所「明星」の商品が少なく、来客数も少ない。

【在るべき姿】

- ・山菜が効率的に採取され、関係団体が活発に山菜加工所を利用し稼働率が上がっている。
- ・女性や消費者の声を反映して商品の開発・改良がされている。
- ・特産物販売所の品揃えが充実し、客の入込みが増加している。

【期間】 平成 27 年度～平成 31 年度

【具体的な取組み】

- ・地区内の団体が連携して山菜加工所を利用する。
- ・山菜採取の方法を工夫する（週 2 回の採取実施、イベント開催、連絡網の作成、買取制度の周知徹底等）。
- ・採取した山菜の取扱いのルールをつくる（地区間の合意形成が必要。山菜自生地土地所有者にもメリットがあると良い）。
- ・女性や消費者の声を商品づくりに反映させる。
- ・特産物販売所を活用する（案内看板設置、イベント実施、出荷者が店頭に出る等、車を止める工夫が必要）。
- ・平岩駐車場を活用する（テント市などの開催）。

【関係団体】 小滝生産森林組合、まいまいの会、小滝特産会など



山菜加工所(左)・販売所(右)



山菜(タカバ)採取

(3) 高浪の池の運営見直し

【現状】

- ・営業期間（4 月末～11 月上旬）のうち、夏休み以外は閑散としている。
- ・施設管理の人員不足のほか、池周辺や自然資源を説明するガイドがない。
- ・食堂のメニューに、目玉となる料理がない。
- ・売店は、地元山菜や糸魚川のお土産、加工品が少なく、長野県のものが多い。

【在るべき姿】

- ・運営の見直しにより池の資源が有効に活用され、訪れた人の満足が高まり、リピーターや新規客数の増加に繋がっている。
- ・観光事業者や大学等との連携により、池周辺の資源を活用できる人材とのネットワークが構築されている。
- ・地元で採れた旬のものを提供し、商品が充実している。
- ・仕入れ先の開拓により、コストダウンが図られている。

【期間】 平成 27 年度～平成 31 年度

【具体的な取組み】

- ・運営形態の効率化を進める（休日を設けて部分的に施設を開放する、週 1 日は休みにする等）。
- ・グラウンドゴルフ場を活用する（無料開放、月 1 回のグラウンドゴルフ大会開催等）。
- ・ジオパークガイド、新潟大学ダブルホーム等との連携を強化する。
- ・地区内の団体と連携し、食堂の新メニューを開発する。
- ・ネットワークを活用し、新たな仕入れ先を開拓する。

【関係団体等】 白馬山麓国民休養地運営協議会、小滝グラウンドゴルフ愛好会、まいまいの会、大学、観光協会、地域おこし協力隊など



高浪の池高原交流センター



グラウンドゴルフ大会(高浪の池)

(4) 生活環境確保の取組み

【現状】

- ・獣害（タヌキ、イノシシ、サル等）が増加している。
- ・耕作放棄地、管理が不十分な空き家、空き地が増加している。

【在るべき姿】

- ・住宅周辺で耕作することが理想。できるかぎり田畑を集約し、そこに電気柵を張る。
- ・耕作放棄地や空き家、空き地が適正に管理されている。

【期間】 平成 27 年度～31 年度

【具体的な取組み】

- ・ボランティアや協力者を募り、電気柵やワナを設置する。
- ・里と山の境界にある雑木の枝打ちをし、獣が住めない環境にする。
- ・モンキードック（サル退治用の犬）の導入を検討する。
- ・耕作放棄地や空き家等の所有者に連絡し、管理を要請する。

【関係団体等】 各集落、小滝生産森林組合、地区内外の協力者など

(5) 地域おこし協力隊の活用

【現状】

- ・人口減少と高齢化により、地区活動の人手が不足している。
- ・イベント等の内容がマンネリ化しており、新しい発想での企画力が求められている。
- ・行事や活動の情報をインターネットで発信できない。

【在るべき姿】

- ・隊員が地域住民と積極的に関わりながら、楽しく地域協力活動に取り組み、暮らしている。
- ・地区や行政から、生活・活動・定住・起業に向けたサポートを十分に受けている。
- ・行政や地域住民とは違った視点、発想による地域活性化への提案と実践を行っている。
- ・小滝や糸魚川の魅力が情報発信されている。

【期間】 平成 27 年度～平成 29 年度（最大で 3 年間）

【具体的な取組】

- ・隊員に対する、地区や行政からのサポート体制を構築する。
- ・隊員による高浪の池高原交流センター等の運営支援、新企画立案・運営、情報発信を行う。

【関係団体】 白馬山麓国民休養地運営協議会、小滝地区公民館、小滝地区自治振興協議会、小滝生産森林組合、まいまいの会、市など

7 年度別事業予算（収支計画）

○収入

（単位：千円）

| 項目 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 合計 |
|-------------|------|------|---------|------|------|-----|
| 地域づくり活動支援事業 | 305 | 305 | 事業費の見直し | | | 610 |
| 自己資金 | 45 | 45 | | | | 90 |
| 合計 | 350 | 350 | | | | 700 |

○支出

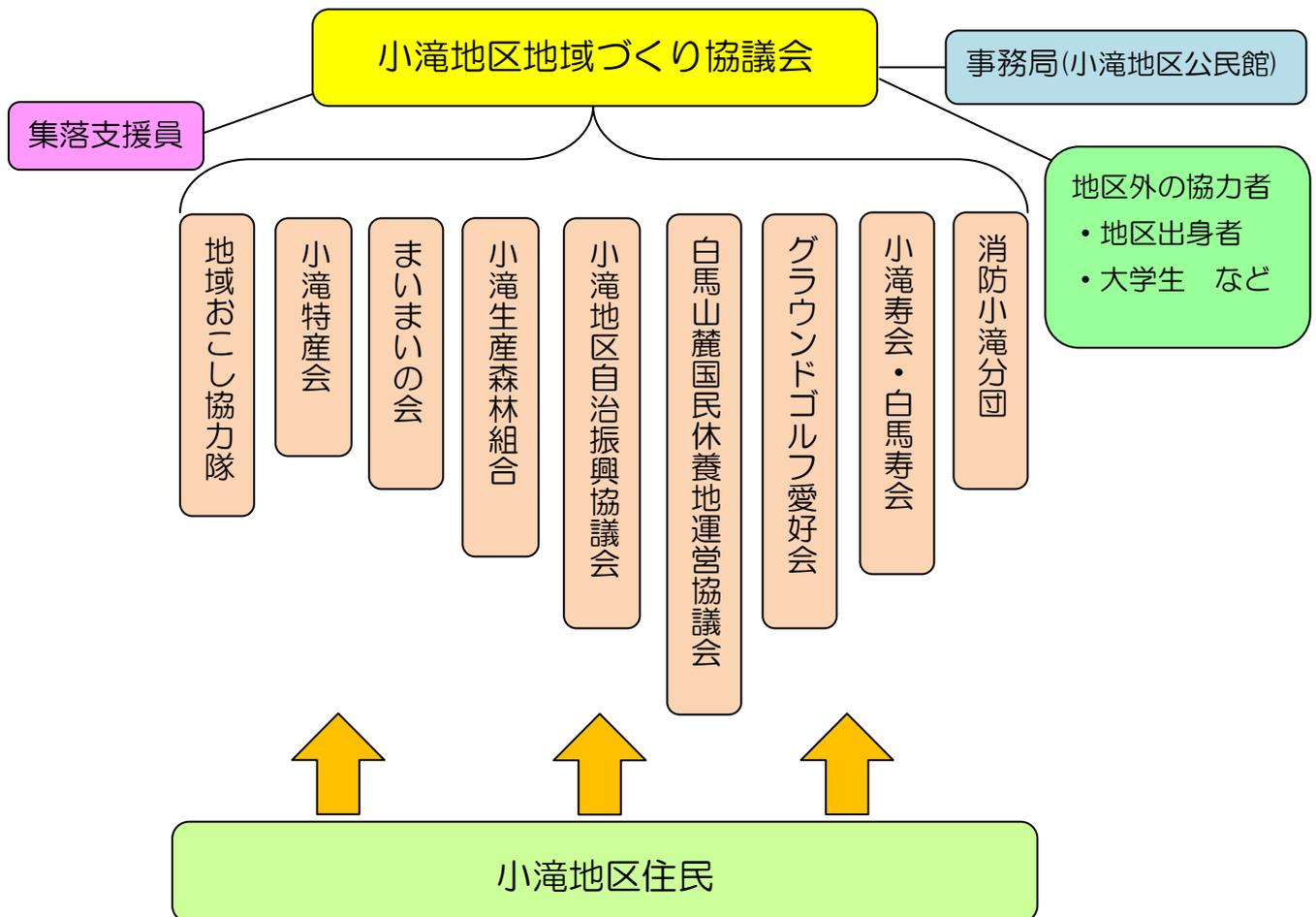
（単位：千円）

| 項目 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 合計 |
|---|------|------|---------|------|------|-----|
| 移住者受入体制づくり ・移住体験ツアーの実施等 | 100 | 100 | 事業費の見直し | | | 200 |
| 山菜活用 ・山菜採取ツアーの実施等 | 100 | 100 | | | | 200 |
| 高浪の池の運営 ・グラウンドゴルフ大会の実施等 | 100 | 100 | | | | 200 |
| 生活環境維持の取組 ・ボランティアの募集と環境維持活動の実施等 | 50 | 50 | | | | 100 |
| 地域おこし協力隊の活用 ・情報発信、企画運営等 (隊員の人件費・活動費は市が負担) | 0 | 0 | | | | 0 |
| 合計 | 350 | 350 | | | | 700 |

8 活動推進体制

活動は、「小滝地区地域づくり協議会」を中心に、地区内の各団体が連携をとり、活動の情報発信等により、地区住民や地区外に協力者を求めながら推進します。

また、地域おこし協力隊、集落支援員の協力も得ながら、地域づくり協議会で定期的に会議を行い、各事業の推進に当たります。



| | |
|--|---|
| <p>小滝地区地域づくり協議会（事務局：小滝地区公民館） 住 所 〒949-0462 新潟県糸魚川市大字小滝 5230 電 話 025-556-2002 (FAX 兼) E-mail kotakiko@bz04.plala.or.jp</p> |  |
|--|---|